

## 科の説明

当内科は主として、血液疾患、感染症疾患、の診断と治療を行っている。  
血液疾患に関しては造血器悪性腫瘍を中心とし、白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に代表される悪性疾患や種々の貧血症例、血小板減少性紫斑病や DIC など出血性並びに血栓性疾患、を含めた広い範囲を対象として診断と治療にあたっている。造血幹細胞移植療法も行っており、昨年は同種造血幹細胞移植 7 例、自家造血幹細胞移植 3 例行い難治性血液疾患を中心に根治療法として実績をあげている。感染症疾患に関しては HIV、結核、等特殊感染症を対象とし診断と治療を行っている。志摩半島には日本紅斑熱の流行があることが判明しその臨床研究も行っている。

## 一般目標

当科は、医師として必要な内科疾患特に血液、感染症疾患の診断と治療をするために、基本的知識を習得しその上でさらに心的要因や家族背景などを考慮した全人的な医療を提供するための基礎を築くことを目的として行う。

## 行動目標

- 1) 各種注射、採血、穿刺（骨髄穿刺など）、などの基本的な処置を施行することができる。
- 2) 検体検査所見(血液細胞、血漿蛋白、止血、骨髄、細菌検査など)、画像所見、電気生理学的所見の結果を評価し、適切な診断治療を行うことができる。
- 3) 感染症疾患治療剤を適切に使用できる基礎を学ぶ。
- 4) 血液疾患治療剤を適切に使用できる基礎を学ぶ。
- 5) 各種輸血療法の適応、副作用、及びその対策を理解し実行できる。
- 6) 早期発見、早期治療の必要な血液、感染症疾患について初期治療を開始し治療計画が立てられる。
- 7) 造血器腫瘍では QOL も考慮した総合的な治療計画に参画できる (がん化学療法、緩和ケアも含む)。
- 8) 診療記録（カルテ、退院サマリー、紹介状、診断書など）を適切に作成できる。
- 9) 造血幹細胞移植、血漿交換、特殊感染症にも目を向け診断、治療にも参画できる。
- 10) カンファレンスや学術集会で症例提示や意見交換を行うことができる。

## 経験目標

- 1) 血液疾患の診断と治療（ひろく、浅く）
- 2) 感染症疾患の診断と治療（ひろく、浅く）
- 3) 2ヶ月で25症例以上
- 4) 血液・感染症外来での経験

## 指導体制

- 1) 外来及び病棟において通常遭遇する血液疾患、感染症疾患の診療にあたり、入院については、症例が片寄ることなく、均等に担当できるよう指導医がわりあて、副主治医として診療にあたり、外来については、外来担当医の指導のもと診断、治療を行う。
- 2) 救急患者の診療については、指導医・研修協力医とペアになり、当番となった昼間・夜間・休日の診療を担当する。

## 週間スケジュール

	午前	午後	時間外
月曜日	外来（血液感染症教育回診）	外来、回診	18:00～新患紹介
火曜日	外来	外来、回診	
水曜日	2病棟カンファレンス 外来（血液教育回診）	外来、回診	17:00～血液像検討会 18:00～内科症例検討会
木曜日	外来	外来、回診	
金曜日	外来（血液感染症教育回診）	外来、回診	

## 定例研修会等

会名	世話人	開催曜日	会場	実施回数
東海スライドカンファレンス		土曜日	名古屋	年2回
血液腫瘍セミナー	中瀬一則 影山真一	木曜日	津	年2回
血液腫瘍フォーラム	片山直之	金曜日	津	年2回
HIV 三重ブロック会議	大石晃嗣	金曜日	津	年2回
癌チーム医療研究会	中瀬一則	土、日	津	年2回
東海リンパ腫フォーラム		土曜日	名古屋	年2回
東海HSCT 懇話会		金曜日	名古屋	年2回

## 具体的な研修方法・留意事項

- 1) 研修医は、受け持ち患者の診療状況を常に指導医・研修協力医に報告し、病状の把握に独善のないよう努めること。必要とあれば、他科の指導医にも躊躇なく指導を受けること。
- 2) 基本的に研修医は病棟で受け持ち患者を持ち、研修を行うが、外来患者や救急患者の診察も指導医・研修協力医の元で行う。
- 3) Essential Minimum に力点を置いた研修を行う。
- 4) 研修医は定期的に行なわれるカンファレンスに出席すること。
- 5) 症例報告会、研修会、学会にも参加すること。
- 6) 化学療法・輸血療法・感染症管理・治療については病棟、カンファレンスで経験する。
- 7) 骨髄穿刺・骨髄生検、胸水穿刺、腹水穿刺は症例があれば指導医・研修協力医の指導のもとに実施する。
- 8) 末梢血・骨髄像については骨髄標本検討会で指導医・研修協力医に指導を受ける。
- 9) 朝8時30分に内科医局に集合し担当患者を振り分けられる。
- 10) 当直明けは必要な申し送りをして帰ること。